

5. 硬化養生

5-1) マスキングの除去

塗布作業を終えたら、すべり止めコートが硬化する前にマスキングを除去します。

アドバイス!!：階段へ塗布する際は、「すべり止めコートを塗って、マスキングを外す～」を繰り返しながら上段から下段へ降りていって下さい。



5-2) 硬化養生

気温15℃～35℃のとき、24時間～12時間で硬化します。

重車両等が往来する際は、同温度域の場合は、3倍くらいの養生時間を取って下さい。

アドバイス!!：冬期の作業はお勧めしませんが、施工をする際は冬用硬化剤をご使用下さい。
(お気軽にメーカーへお問い合わせ下さいませよう、お願い致します)

以上

注意事項:

- 塗布面の汚れ、錆び、油分等は除去して下さい。接着不良の原因となります。
- ケレンは、下地の健全な表面が露出することが理想ですが、現場の状況に応じて“取れるモノは、除去して下さい”。
- 樹脂が手肌に付かないように、手袋等の防護をして下さい。
- 残った樹脂は、密閉して冷暗所へ保管して下さい。
- 主剤と硬化剤の計量は秤を用いて出来るだけ正確に、主剤、硬化剤の混合は充分に行ってください。
- 湿気が多い時期や冬期の施工で、金属面に塗布する際は“結露”に注意して、結露している恐れのある場合は施工しないで下さい。→**剥がれの原因になります。**
結露の確認方法：粘着性の強いガムテープを塗布する金属面に抑え込んで貼り付けから、ゆっくりと剥がします。メリメリという感じで剥がれたら“結露はありません”、簡単に剥がれたら結露している疑い有り。
- 濡れた面、油が付着した面は、乾燥及び清掃をして下さい。→**接着力が低減し、剥離する恐れがあります。**
- タイル面の施工はお勧めできません。→**半年～1年後に剥がれる恐れがあります。**
- カラークリート、ケミクリート、防塵コート等の特殊なコンクリート面は、事前に相談下さい。
→**直塗りは剥がれます。**
- FRPの表面へ施工する場合は、塗布面を#40サンドペーパーでケレンして、表面に粗い凹凸をつけて下さい。→**剥離防止措置**
- ラツタル(垂直梯子)には施工できません。→**塗布し難く、剥がれ易い。**
アスファルトは、打設間もない場合(雨天時に、アスファルト表面に油分が浮きでる状態が確認できる)
- 期間までは“テスト塗り”をお勧めします。→**接着不良の恐れがある。**
- 御影石の階段等への施工は、事前に問い合わせて下さい。
→**硝子成分の多い床面は剥がれ易い傾向があります。**
- 亜鉛メッキには別売りの「M-プライマー」の併用が必要。但し、M-プライマーを併用しても3年～5年経過後(左記の期間は飽くまでも目安)に剥がれてくるので、再施工が必要となります。
- その他、ご不明な点は関西パテ化工機へお問い合わせ下さい。

関西パテ化工株式会社 〒579-8003 大阪府東大阪市日下町3-7-36 TEL.072-982-2131(代)

東京支店 TEL.03-3850-3191(代)

北九州営業所 TEL.093-571-7156(代)

2023.1.5.



説明書

KANパテ すべり止めコート

関西パテ化工機の「すべり止めコート」は、アルミナセラミック、難燃化充填材を高配合した高性能・高耐久性の滑り止め材です。

以下に標準施工要領を記しますので、参考にして下さい。



性状

項目		基準温度	単位	試験結果	
配合比			重量比	主剤:硬化剤=9:1	
外観			—	低粘度ペースト状	
塗布面積		5kgset	m ²	2~2.5	
一般用	可使時間	25℃	分	60	
	硬化時間	歩行	25℃	時間	24
		車輦通行	25℃	時間	72
冬用	可使時間	10℃	分	60	
	硬化時間	歩行	10℃	時間	24
		車輦通行	10℃	時間	72

※上記データは、弊社試験結果であり保証値ではありません。

★別売り★

品名：紙管ローラー 10cm (内径37mm)

紙管ローラー 20cm (内径37mm)

荷姿：紙管ローラー 10cm × 3本/袋

紙管ローラー 20cm × 2本/袋

適用：汎用ローラー

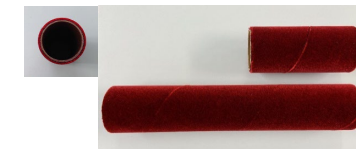
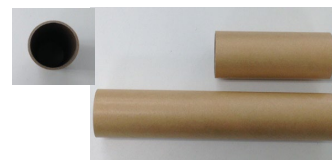
品名：短毛ローラー 10ccm (内径37mm)

短毛ローラー 23ccm (内径37mm)

荷姿：短毛ローラー 10cm × 2本/袋

短毛ローラー 23cm × 2本/袋

適用：縞鋼板への塗布時に使用のこと



関西パテ化工株式会社

作業の工程は4つです。

1. 下地処理
2. マスキング処理
3. 本剤(すべり止めコート)計量・攪拌
4. 本剤(すべり止めコート)塗布
5. 硬化養生

すべり止めコートの標準的な使い方:

1. 下地処理

1-1) 塗布する表面の埃、錆、旧塗料等の除去

表面に付着している汚れや劣化したコンクリート、塗装、錆等のスケールを除去します。
錆や劣化した塗装等があれば、ワイヤーブラシ等でケレンをします。

1-2) アセトンを染み込ませたウエスで拭きます。(脱脂処理)

アドバイス!: 下地の表面は、ツルツルよりもガサガサに荒れている方が、より強力に接着します。

2. マスキング処理

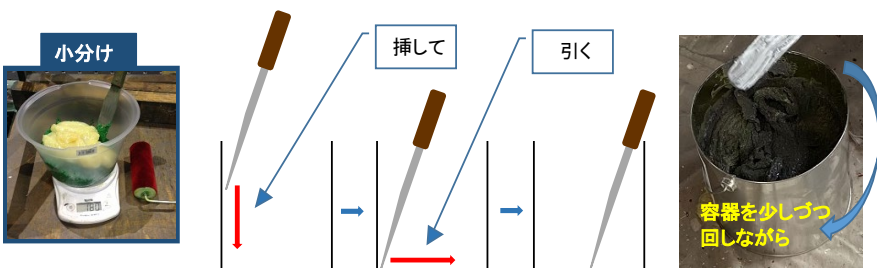
2-1) 養生テープやマスキナー等でマスキングを行います。



アドバイス!: マスキングは、本剤の施工が終われば直ぐに剥がします！
本剤が硬化した後ではマスキングが綺麗に剥がせません。

3. 本剤(すべり止めコート)計量・攪拌

3-1) 小分けの際は、主剤(各色)と硬化剤(アメ色)を秤を使って、9:1(重量)の割合で混合します。
1セット(5kg)を混合する際は、缶の(内側の)壁面、底面の樹脂をヘラの先端で擦り落とすようにして、“挿しては、引く、を繰り返して混合すると楽です。(攪拌の目安は2~3分です)



3-2) 何セット(5kg)も混合する際は、900W以上のパワーの電気ドリルと攪拌羽根(塗料用)を用いて混合して下さい。(攪拌の目安は2~3分です)



アドバイス!: 容器の“壁面”、“底部”、は主剤と硬化剤の混合が不十分になる恐れがあります。
攪拌羽根やヘラで、壁面や底部を入念に混合して下さい。

アドバイス!: 配合比率を厳守すれば、秤取って小分けして使用できます。

4. 本剤(すべり止めコート)塗布

4-1) 塗布

金ヘラや金コテで、すべり止めコートを1mm程度の厚みで塗布します。



4-2) ローラー掛け/ハンドルはレギュラーサイズ/長さはローラーに合わせてください
すべり止めコートの防滑性能を十分に発現させるためには、専用ローラーでの仕上げ処理が必要となります。



アドバイス!: 紙管ローラーは標準的な高い凹凸に仕上がります。
縞鋼板のように塗布面がデコボコしている際は、短毛ローラーをご使用下さい。

アドバイス!: 市販の短毛ローラーで少し強めに塗布すると、穏やかな凹凸に仕上がりますが、グリップ力は低減し、大雨の際や水分がある場合には防滑性能が発揮できないことがあります。

